

# 狂言「入間川」について

狂言入間川を観る会 杉山 康子

狂言入間川を観る会では、一年に一回、鑑賞会（大蔵流山本会）を開いています。市民の皆さまにぜひ本物の「入間川」という狂言を観ていただきたいのです。

入間川の水源は、名栗村の沢の苔むした岩場で、熊の爪跡が残る山の中です。名栗村、飯能、入間、狭山、川越を経て荒川に注いでいます。この経過地の中で入間川という地名は、私たちの狭山市だけです。この入間川地区の入間川の河畔は、歴史的に交通の要所で、多くの人たちが通った所です。

入間川の逆さ言葉を風刺的に扱って、ちょっと得意な大名の愚かさを表現しているのが、狂言「入間川」です。この曲の初演は、1464年と記録にあるそうです。そうすると、その後生まれた信長、秀吉、家康も、もしかすると狂言入間川を観ていたかもしれない。とんでもない発想かもしれませんが、なんだかワクワクしてきます。

そもそも狂言とは、能と共に室町時代初期に生まれたもので、能は歌と舞による心理劇で、狂言は笑いを基本にしたせりふ劇です。小学校の教科書（附子・末広）にもあるわかりやすいお話して、笑いの中で人の愚かさを表現しています。

狂言の装束のこと、音楽のこと、能とのかかわりなどは、又、機会があれば紹介させていただきたいと思います。

・第10回「狂言鑑賞会」 9月28日（日）13:00開演 狭山市市民会館大ホール  
（申込み：杉山 : 042-957-1285）

## — 加盟団体紹介 —

### 狭山市民劇団ステップ

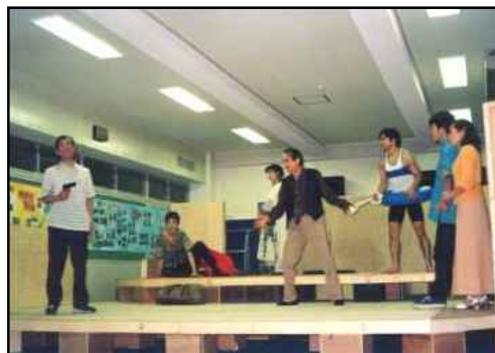
狭山市に演劇活動を推進する拠点を創ろうと、演劇好きの4人が発起人となって、平成7年11月24日「狭山市民劇団ステップ」が誕生しました。

翌年3月に旗揚げ公演を開催し、平成14年9月に第8回公演を開催することができました。その間、「演劇初級教室」を開催し、演劇の世界は初めての方々に舞台の楽しさを知ってもらいました。

劇団員は20歳代から60歳代と幅広い年齢層で構成され、現在16名の団員と顧問1名のメンバーで活動しています。上演作品は楽しく笑えてちょっとホロリとするコメディを、毎年1回の公演を目指して土曜日の夜、稽古に励んでいます。

今年は、9月22日・23日の両日、狭山市立入間川東小学校・多目的ホールに於いて、第9回公演《そんな初夜の話》一幕を上演します。とっても、とっても気になる物語。乞うご期待！

劇団ではスタッフ、キャスト希望の方を募っております。演劇は初めての方もぜひ参加して、一緒に楽しいドラマを創りましょう。



稽古風景

代表 能川 堅弥